

伴走型支援事例 (直島町商工会)

～SPARKY's Coffeeによる直島ぎんぎの復活～

会社説明

当社、有限会社町川組の主たる事業は建設業ですが、代表者の長女が、自分の店を持ちたいという夢を実現させるため、平成27年7月に歯科技工士を退職。ダートコーヒーカフェスタイルで5か月指導を受けた後、島民に親しまれていたスーパリーの跡地を憩いの場として再生させたいとの思いから、平成28年2月にSPARKY's Coffeeを個人事業として開業しました。

その後、相乗効果を期待して平成31年3月に宿泊施設SPARKY's House をオープンさせたのを機に当社と事業統合し、現在に至っています。

新型コロナウイルス感染症の影響が出る以前の業績は好調で、SPARKY's Coffee は、古民家風のカフェが多い中、広い空間を活かし大好きな映画の世界観を詰め込んだおしゃれなカフェを強みに事業展開、一方、SPARKY's House は、完全個室の3棟の宿泊施設としてグループ旅行の外国人旅行者に人気がありました。

持続化補助金の活用

新型コロナウイルス感染症の影響で、建築家・安藤忠雄氏設計の地中美術館をはじめ、直島で展開しているベネッセアートサイト直島の各施設の総入込客数が、令和元年の約73万人から令和2年には約18万人となり、特に欧米系外国人観光客が著しく減少した結果、カフェ・宿泊施設の売上金額も対前年比70%減となりました。

こうした状況から、ポストコロナを見据えたサービスを導入することがカフェ部門の経営課題となり、日頃お世話になっている商工会に相談したところ、持続化補助金低感染リスク型ビジネス枠を紹介され、商工



会の支援を受けて事業計画書を作成、採択を受けました。

昨春、持続化補助金を活用して店舗を改装し、テイクアウト専用窓口を設けることで対人接触機会を減少させ、瀬戸内国際芸術祭2022で来島された観光客はもちろん、島民の皆さんにも安心して食べていただける、美味しく健康的なお弁当やサンドイッチ、ドリンクの販売を行っています。

今後の展開

今後、感染が落ち着けば、インバウンド需要が戻ってくると予想され、テイクアウトや屋外のテラスでの飲食を好む欧米系外国人観光客や、テイクアウトに馴染んでいる国内若者観光客向けの新商品を開発・販売し、島民に親しまれていたスーパリーの跡地を地域の憩いの場として再生したいと考えています。



直島町商工会
経営指導員 大谷 俊介

新型コロナウイルスの影響が長期化し、小規模事業者の経営を困難にしている中、給付金・小規模事業者持続化補助金を活用した伴走型支援を行い、経営者さんと一緒にコロナ禍を駆け抜けた。



店舗情報

SPARKY's Coffee

住所 香川県直島町 2310-40
電話 087-897-6606
HP <https://www.facebook.com/sparkys.naoshima/>